

企業ニュース **ダイト**

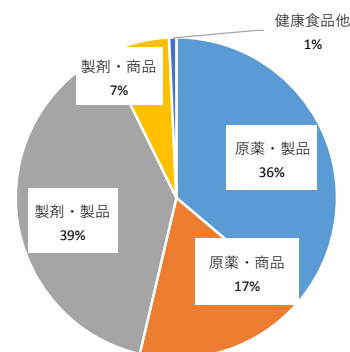
(東証1部：4577) <http://www.daitonet.co.jp/>

作成者：兵藤三郎

原薬から製剤までの一貫製造メーカー

1942年、大東亜薬品交易統制として設立、富山家庭薬の東南アジアへの輸出統制を行う。1945年、大東薬品交易に商号変更、家庭薬の販路を国内に求める。その後、配置用医薬品の製造開始（1949年）、原薬の販売開始（1950年）、医療用医薬品（ジェネリック医薬品：以下GE）の製造開始（1976年）、原薬の製造開始（1979年）、医療用医薬品の受託製造を本格的に開始（2001年）、など事業領域を拡大させてきた。現社名への変更は1991年。原薬と製剤の両部門を併せ持ち、原薬から製剤までの一貫製造が可能なメーカー。原材料メーカーから医薬品メーカーまで幅広い仕入・販売先を持つ特性を生かした商社機能も充実している。2020年（GE比率80%の政府目標）以降も成長を図るため、足元では高薬理活性製剤への注力を進めている。

◇19.5期売上高構成比



(出所)ダイト資料よりCAM作成

GE市場拡大、高薬理活性製剤伸長が業績をけん引

19.5期連結業績は、売上高が411億円、前期比3%増、営業利益が45億円、同9%増。原薬・製剤はともに商品（他社からの仕入れ販売）は減収となったが、製品（自社グループにて製造し品質保証しているもの）の伸長で補った。利益面では、販管費増の影響は受けたが、GE医薬品市場の拡大によるGE原薬、GE医薬品の堅調推移で製品ミックスが改善、増益貢献した。会社計画からは、売上高で3億円、営業利益で2億円上振れて着地した。

20.5期連結業績の会社計画は、売上高が435億円、同6%増、営業利益が47億円、同3%増。引き続きGE市場の拡大が業績をけん引する。19.5期に発注が減少した商品の回復も見込む。20.5期には、2度の薬価改定（19年10月の消費税率引き上げに伴う措置と20年4月に行われる通常の薬価改定）が見込まれる厳しい経営環境だが、第8製剤棟（18年11月竣工、大規模スケールで高薬理活性製剤を生産）の今秋以降の収益貢献も見込み、増収増益を確保しよう。注力する高薬理活性製剤は第8製剤棟竣工に伴い、小規模から大規模スケールまで対応が可能となった。

[株価動向・投資判断]

GE市場拡大と高薬理活性製剤の伸長が業績をけん引、減価償却費は21.5期以降減少が予想され、中期的に業績拡大が期待できよう。PERでは12倍台で割安感もあろう。

<4577 ダイト 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.5	39,875 (5)	4,161 (9)	4,244 (9)	3,041 (14)	243.1	33.00
19.5	41,134 (3)	4,547 (9)	4,641 (9)	3,513 (16)	280.7	38.00
20.5 予	43,500 (6)	4,700 (3)	4,750 (2)	3,300 (▲6)	263.7	40.00



[主要株価指標]	(売買単位：100株)
株価(2019/7/22)	3,155 円
年初来高値(高値日)	3,750 円(19/6/20)
同 安値(安値日)	2,711 円(19/1/15)
予想PER(20.5予)	12.0 倍
1株株主資本(PBR算出用)	2,472.7 円
PBR	1.28 倍
予想配当利回り	1.27 %
(1株当たり配当金年40.00円)	
ROE(19.5)	11.9 %
発行済み株式数	1,252 万株